

平成30年度 都市経済常任委員会行政視察報告について

委員長	古賀 敏彦
副委員長	後藤 理恵
委員	深川 博英
委員	小野 壽義
委員	立山 稔
委員	廣瀬 勝栄

標記の件について報告します。

【視察日時】 平成30年10月30日 14時30分～16時30分

【視察先】 千葉県船橋市 面積 85.62 km² 人口 635,665 人(H30.7.1 現在)

【視察テーマ】 「公共交通の取り組みについて」

【視察概要】

平成30年10月30日千葉県船橋市を訪問し、「公共交通の取り組みについて」研修して来ました。

まず始めに、副議長浦田秀夫氏よりあいさつを受けました。

続いて、建設局道路部道路計画課 課長細川裕之氏及び同 係長すえまつ氏より説明を受けました。

船橋市内には、鉄道が9路線35駅、バスが35路線103系統あり、公共交通機関が発達しているが、内陸部の丘陵地を中心に道路網の不足などの理由から公共交通機関が不便な地区が多数存在していました。

そこで、公共交通活性化協議会において、平成22年2月に「船橋市地域公共交通総合連携計画」を策定しました。

船橋市地域公共交通総合連携計画の基本方針と目標

方針1：交通不便地域の解消

方針2：公共交通の利用促進

基本方針を基に、計画目標を設定

目標1：交通不便地域における持続可能な公共交通サービスの提供

目標2：バス等公共交通機関利用者数の増加

公共交通不便地域の設定

- ① 鉄道駅までの所要時間：13分以上。
 - ・高齢者の歩行速度を63m/分とする。(健常者は78m/分)
$$13分 \times 63m \doteq 800m$$
- ② バス停留所までの所要時間：6分以上
$$6分 \times 63m \doteq 300m$$
- ③ バスの運行間隔：15分間隔以上
$$4本/時間 \times 2往復 \times 運行時間帯13時間 \doteq 100本/日$$

上記基準により、公共交通不便な重点地区を抽出。

重点地区に選定された地区に対し、連携計画で下記の実施メニューを策定

- ① 既存バス路線の再構築
- ② 小型車両による新たな公共交通サービス
- ③ 交通サービスの基準や仕組みづくり
- ④ バス利用ガイドの作成
- ⑤ 情報提供システムの導入
- ⑥ モビリティマネジメントの実施

高齢者支援協力バス

公共交通不便地域に居住する高齢者の移動支援に対して、老人福祉センターの送迎業務の空き時間を利用して運行するバス事業と、自動車学校・教習所の送迎バスの空き席を利用して移動支援を行う事業の2つについて平成16年度より開始しました。

利用対象者は、船橋市内に居住する満65歳以上の高齢者。利用者1名につき、1名の介助者も同乗できます。料金は無料です。

「公共交通不便地域解消事業」実施のための仕組みづくり

公共交通不便地域の解消に向け、地域住民（組織）、事業者、行政の3者が協働で新規バス路線の導入を検討する際の「導入検討の流れ」及び試験運行及び本格運行における「評価基準」については協議会で定めます。

試験運行の場合、収支率が50%に届かなかったときは運行を休止します。

乗り合いタクシー実証実験（オンデマンドタクシー）

平成22～24年度において、4地区で地区内から最寄り駅間を利用者負担一律400円で行うも船橋市にはなじまず休止しました。

平成30年度 都市経済常任委員会行政視察報告について

委員長	古賀 敏彦
副委員長	後藤 理恵
委員	深川 博英
委員	小野 壽義
委員	立山 稔
委員	廣瀬 勝栄

標記の件について報告します。

【視察日時】 平成30年10月31日 13時15分～15時15分

【視察先】 岩手県奥州市 面積993.3km² 人口117,883人(H30.6末現在)

【視察テーマ】 「地域6次産業化の推進について」

【視察概要】

平成30年10月31日岩手県奥州市を訪問し、「地域6次産業化の推進について」研修して来ました。

まず始めに、正・副議長は公務出張のため議会事務局長よりあいさつを受けました。

続いて、総務企画部元気戦略室主幹 伊藤公好氏、同副主幹 高橋博明氏及び同主査 千田芳明氏より説明を受けました。

初めに、奥州市のプロモーションビデオを2本(製作費:40万円と280万円)観ました。

その後、「地域6次産業化ビジョンについて」説明を受けました。

地域6次産業化の目的としては、「基幹産業の農業を基軸に、異業種産業との連携により、農林畜産物等の高付加価値化を図り、新しい内発型ビジネスモデルの創出と地域可能性を広げ、地域ぐるみの産業振興」とのことでした。

平成25年度に、民間チーム6名(農業者3名、商工業2名、消費者1名)と市職員4名、コーディネーター1名(岩手大学・広田教授)で構成する「奥州市地域6次産業化ビジョン策定チーム」を設置し、民間の発想を活かし、従来の市が策定する計画の体裁にとらわれないビジョンを目指し、ビジョンの内容及びトライアルプロジェクト(13事業)の内容協議等を行います。

チーム員によるビジョン策定会議は、平成25年度8回、平成26年度7回開催し、平成27年1月に「第1次奥州市地域6次産業化ビジョン」策定。

基本理念：「食の黄金文化・奥州」の実現による地域産業振興の推進

基本方針：～う米！ きれい田！ 行きた稲！～

平成26年に、応募58作品の中から選定し、「食の黄金文化・奥州」のロゴマークを作成し、平成27年5月商標登録しています。

平成27年には、「奥州市地域6次産業化推進チーム」を設置し、平成27年度と平成28年度の2か年で、推進チームミーティングを16回開催。平成29年3月に「第2次奥州市地域6次産業化ビジョン」を策定し、下記の事業を行っています。

- 1 食の黄金文化・奥州提案モデル事業補助金（フォローアップ支援事業）
- 2 地域6次産業化出前個別相談会（補助金交付者等へのフォローアップ支援）
- 3 う米（まい）のおうしゅう 食の黄金店認定事業
- 4 食の黄金文化・奥州 料理コンクール
- 5 奥州食の黄金文化祭
～おやつフェスティバル～
- 6 おうしゅう旅浪漫HPの充実
地域特産物販売促進サイトの開設
- 7 食の黄金文化情報（PV）発信
プロ野球の大谷翔平選手（奥州市出身）出演
- 8 食の黄金文化・奥州輝かせ隊による情報発信（ブログ・フェースブック）
- 9 いわて銀河プラザ（東京・銀座）でのイベント
- 10 食の黄金文化 首都圏でのPR活動

ブランド総合研究所が行っている「地域ブランド調査」（全国1000市区町村）において奥州市の認知度は、平成27年度565位、平成28年度604位であり市の魅力度アップを目指していました。

平成30年7月18日には「食の黄金文化・奥州推進協議会」を設立し、奥州市の知名度を高めて、地域ぐるみの産業振興を図るよう尽力されてありました。